会議議事録

会議名　：介護医療院転換プロジェクト　キックオフミーティング

日時　　：2023. 7. 5（水）　　15：00～17：00

場所　　：病院本館 2 階会議室

参加者　：土井　坂口　原田　菊地　吉田　市村　渡辺　磯岡（ホスト）　水野　佐藤（書記）　　（敬称略）

議事

1. 自己紹介
2. 土井理事長より
   ・人材の課題はあるが、悲観的になりすぎず準備を進めてもらいたい。
   ・介護医療院の必要性を現場を巻き込みながら推進してもらいたい
3. 経過説明
   資料に沿って説明（磯）
4. 介護医療院転換事例について
   岐阜県の介護医療院転換施設（老健からの転換）について転換のメリット、転換後の課題等を資料に沿って説明（磯）
5. 試算の説明
   資料に基づき説明（水）
   ・人員配置　：黒字施設と赤字施設との比較において、（エスペーロに換算すると）7～8 人分配置に差がある。
   ある程度人員配置を絞らないと、黒字化できない可能性がある。
   ・経常利益　：満床ベースでは利益率 9.8%（5,000 万円）の利益と予測している。
   ｴｽﾍﾟｰﾛがⅠ型で黒字化するには 85.2%の入所率を想定している。
   ・医師配置　：Ⅰ型で医師配置が異なる。Ⅰ型単独では医師 3 名が必要となり、そこで赤字に転落する可能性ある。
   ｴｽﾍﾟｰﾛは病院併設という条件から少ない配置で済むため、その点で有利。

   全体として試算の精度はまだ低い。現状はⅡ型が利益確保できるように見えるが、細部も含めて検討する必要がある。

6. 質疑内容
   ①医療提供について
   ・医療処置は麻薬を使用したもの以外は現在もできているので、対応できると認識している。
   ・中心静脈栄養・経鼻栄養の対象を受け入れていないので、そこは新たに対応する必要がある。
   ・CV 対象者への対応（ポート作製して転院する？）、HOT（在宅酸素療法）の対応については今後具体的に検討

   ②看護師の採用について
   ・現在勤務している看護師の適応（医療面での再教育が必要）も課題。
   ・移行後病床数は 95 床で 16 人の看護師配置が必要となる。そのうち 20%が正看護師であることが条件。
   現在夜勤の看護師は一名体制、介護医療院では 2 名体制となることが想定されるため、増員が必要となる。
   常勤職員が増えれば対応可能だが、そこをどの程度確保できるかが課題。

③介護職の配置について

・介護職は　19.2 名（≒20 名）配置が必要となる。

常勤換算では留学生を含んで 30 名となっている。ちなみにクレオは 40 人程度。

④Ⅰ型とⅡ型の配分について

・人員配置としては大きな差がないため、Ⅰ型をどの程度集められるかの予測からⅠ型併設かⅡ型単独か検討する。

・Ⅰ型かⅡ型については、我孫子市側より問い合わせを受けている。計画策定段階で決定する必要はないとは思う。

我孫子市には「現在検討中で今後試算等に基づいて決定する」と回答している。

・看護体制がより重要となる印象。Ⅰ型の対象者の基準を常時クリアすることは難しい印象のため、全てⅡ型とするのが現実的的な印象。

・療養型病床からの転換であればⅠ型も想定されるが、老健からの移行事例はほぼⅡ型で占められる。

⑤開設時期

・計画段階では 2025 年開設としているが明確な根拠はない。

・補助金等の取得がないため、創造会側の準備等々の都合で早くも遅くもできると認識している。

＞　補助金は取得可能なものがあれば利用してもらいたい（土）

・現行の設備で開設できなくはないが、施設設備の老朽化が進んでいるため今後の大規模修繕も想定される。

・居住空間をどうデザインするかによっても追加設備等が必要となるため、それらを含めた計画・試算が必要。

⑥その他

次回会議は時期未定

当面は Slack で情報共有を進める

以上